

◎東京新聞

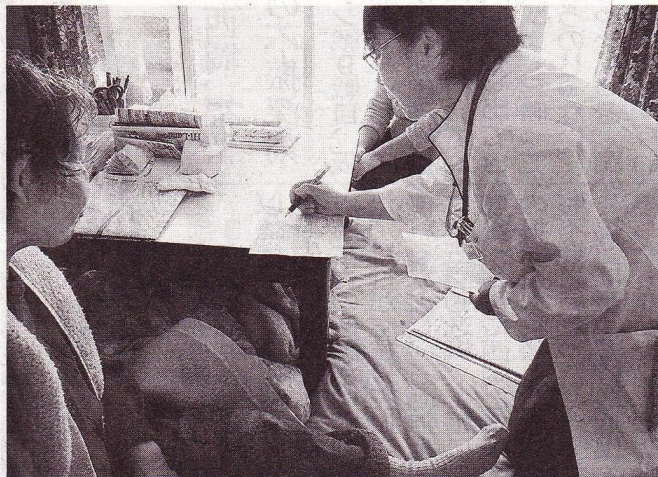


インフルエンザ

今年のインフルエンザのピークは越えたようですが、日本の人口動態をみると、死亡者は毎年一月に増えます。インフルエンザの流行時期とも重なることから、肺炎なども含め、インフルエンザにかかることで、より多くの方が亡くなる「超過死亡」との見方で考えることができます。

確かに肺炎の死亡者は高齢者人口とともに年々増えています。ですが、全例でインフルエンザが関わっ

抗体が最良の治療薬



スタッフが血液検査の結果を説明する

ているわけではありません。当院で在宅療養を受ける患者のインフルエンザ発生率を見ると、毎年十二月から翌年三月までの四カ月間で三八度以上の熱を出した方のうち迅速検査で陽性となったのは、患者千人あたり一日〇・二六から〇・四七件との結果でした。在宅の患者の発生率が特に高いわけではありません。

実は発熱の原因はインフルエンザ以外のものが多く、上気道炎が六割を占め、次に細菌性肺炎が16%、インフルエンザは8%ほどでした。在宅患者は外出の頻度が少なく、家庭でケアされることがインフルエンザの予防につながっている可能性もあります。

加えて、高齢者はこれまで幾度もインフルエンザの流行に遭遇してきたと考えられます。実際、一九一八年にスペイン風邪が流行した前に生まれた方には、二〇〇九年に流行した「新型インフルエンザ」に対する抗体保有者が多いとの興味深いデータがあります。

また、毒性の強い鳥インフルエンザ(H5N1)への抗体をすでに保有する人が日本でも発見されています。自分の身で獲得した抗体は、最も有効な治療薬といえます。

(川崎高津診療所院長)

次回は二十六日掲載